

令和2年

文化財（加多志波神社）火災防ぎょ訓練および

木造住宅密集地火災防ぎょ訓練

令和元年管内災害発生状況

火災件数 21件

救急件数 3,168件

救助件数 67件

令和元年度 全国統一防火標語
『ひとつずつ いいね！で確認 火の用心』



追難面（父鬼）



追難面（子鬼）



追難面（母鬼）

鯖江・丹生消防組合消防本部

ホームページアドレス

<http://www.fd-sabaenyu.jp>

鯖江・丹生消防組合消防本部・消防署

1 目的

1月26日の文化財防火デーに伴い、国の重要文化財に指定されている木造追儼面および県指定の文化財である木造聖観音菩薩立像を管理している加多志波神社を拠点として、神社関係者、消防団、消防署、鯖江市教育委員会が連携して消防訓練を行い、鯖江市の宝である文化財を守ることを目的とする。

また木造住宅密集地および強風下で発生した火災の延焼拡大防止対策の徹底のため、自主防災組織、消防署、消防団が連携した迅速的確な火災防ぎょ体制の確立、周辺建物への注意喚起、必要に応じた緊急避難の指示などの体制を確認し、火災予防の徹底を図ることを目的とする。

2 日時 令和2年1月26日（日）午前10時00分～

3 場所 鯖江市川島町 加多志波神社周辺一帯

4 出動人員および車両

- | | | |
|------------------------|------|------|
| (1) 神社関係者・川島町自主防災組織 | 約60名 | |
| (2) 鯖江消防団 | 26名 | 車両5台 |
| (進徳・石田・豊・北中山・片上・河和田分団) | | |
| (3) 消防本部・署 | 25名 | 車両3台 |

5 訓練

- (1) 消火器・消火栓取扱訓練
- (2) 火災発生時の対応訓練
(通報・初期消火訓練、文化財搬出訓練)
- (3) 文化財および木造住宅密集地火災防ぎょ訓練

6 終了式

- (1) 教育長あいさつ
- (2) 来賓あいさつ
- (3) 講評
- (4) お礼のことば

追儼面は追儼という、かつて大晦日に宮中で行われていた鬼払の儀式に用いられた面である。加多志波神社の追儼面は父鬼面、母鬼面、子鬼面の三面が残っており、三面一具として伝えられてきた。父鬼面は額に2本の角を持ち、口を大きくあけて牙を見せる忿怒の形相である。裏面に朱漆による修理銘が残る。製作は鎌倉時代。寸法は31.5cm×23.6cm。子鬼面は頭頂に前後並ぶ2本の角を持ち、口を閉じて両端二本の牙を見せる。裏面に銘があり、かつてこの地にあった蓮華寺の修正会に用いられていたことがわかる。制作は鎌倉時代。寸法は27.6cm×21.4cm。附指定の母鬼面は、大部分が後の修理の際に補われたものである。寸法は29.0cm×26.8cm。（表紙写真）

木造 聖観音菩薩立像



本像はかつて加多志波神社の神宮寺であった蓮華寺に安置されていた像で、のちに村人が建てた観音堂の本尊として祀られてきた。頭頂に髻を結び、左手を曲げて蓮華を持ち、垂下した右手の第1、2指を捻じて、蓮華座上に立つ聖観音立像である。桧材の一木造で、髻から足裾までを一材で彫出し、内刳は施されていない。穏やかな表現の像で、制作は平安時代と考えられる。像高は104.0cm。